

(1) 正の整数 k に対し、

$$A_k = \int_{\sqrt{k\pi}}^{\sqrt{(k+1)\pi}} |\sin(x^2)| dx$$

とおく。次の不等式が成り立つことを示せ。

$$\frac{1}{\sqrt{(k+1)\pi}} \leq A_k \leq \frac{1}{\sqrt{k\pi}}$$

(2) 正の整数 n に対し、

$$B_n = \frac{1}{\sqrt{n}} \int_{\sqrt{n\pi}}^{\sqrt{2n\pi}} |\sin(x^2)| dx$$

とおく。極限 $\lim_{n \rightarrow \infty} B_n$ を求めよ。

< '23 東京大 >

【戦略】

(1) $\int \sin(x^2) dx$ というものはそのままでは計算不可能です。

いずれにせよ、 $\sqrt{k\pi}$ 、 $\sqrt{(k+1)\pi}$ という目がチカチカする部分を少しでも軽減するために、 $x^2 = X$ などと置換してやります。

積分区間は正の範囲ですから、 $x = \sqrt{X}$ として捌けばよく

$2x dx = dX$ より、 $dx = \frac{1}{2\sqrt{X}} dX$ 、積分区間は

x	$\sqrt{k\pi} \rightarrow \sqrt{(k+1)\pi}$
X	$k\pi \rightarrow (k+1)\pi$

となるため、 $A_k = \int_{k\pi}^{(k+1)\pi} \frac{|\sin X|}{2\sqrt{X}} dX$ となります。

もちろん直接の積分計算は不可能です。

そこで、定積分の不等式評価の代表的な考え方
「体の一部を定数化」

で仕留めます。

積分区間 $k\pi \leq X \leq (k+1)\pi$ において

$$\frac{1}{2\sqrt{(k+1)\pi}} \leq \frac{1}{2\sqrt{X}} \leq \frac{1}{2\sqrt{k\pi}}$$

ですから、

$$\frac{|\sin X|}{2\sqrt{(k+1)\pi}} \leq \frac{|\sin X|}{2\sqrt{X}} \leq \frac{|\sin X|}{2\sqrt{k\pi}}$$

と評価でき、ここからは手なりの基本計算で片付きます。

(2) 当然 (1) の不等式を利用した「はさみうちの原理」を覗みます。

(1) の結果を活用しようと思えば

$$\begin{aligned} \int_{\sqrt{n\pi}}^{\sqrt{2n\pi}} |\sin(x^2)| dx &= \int_{\sqrt{n\pi}}^{\sqrt{(n+1)\pi}} |\sin(x^2)| dx + \int_{\sqrt{(n+1)\pi}}^{\sqrt{(n+2)\pi}} |\sin(x^2)| dx + \dots + \int_{\sqrt{(2n-1)\pi}}^{\sqrt{2n\pi}} |\sin(x^2)| dx \\ &= A_n + A_{n+1} + \dots + A_{2n-1} \left(= \sum_{k=n}^{2n-1} A_k \right) \end{aligned}$$

と見なくなるはずですが。

(1) の結果を用いると、 $\frac{1}{\sqrt{n}} \sum_{k=n}^{2n-1} \frac{1}{\sqrt{(k+1)\pi}} \leq B_n \leq \frac{1}{\sqrt{n}} \sum_{k=n}^{2n-1} \frac{1}{\sqrt{k\pi}}$

と評価でき、形的に区分求積法で仕留める算段がつくでしょう。

【解答】

(1) $x^2 = X$ とおく。 $x \geq 0$ の範囲では $x = \sqrt{X}$

このとき、 $2x dx = dX$ で、 $dx = \frac{1}{2\sqrt{X}} dX$

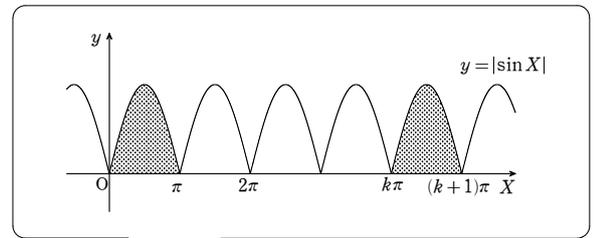
ゆえに、 $A_k = \int_{k\pi}^{(k+1)\pi} \frac{|\sin X|}{2\sqrt{X}} dX$

積分区間 $k\pi \leq X \leq (k+1)\pi$ において

$$\frac{1}{2\sqrt{(k+1)\pi}} \leq \frac{1}{2\sqrt{X}} \leq \frac{1}{2\sqrt{k\pi}}$$

すなわち、 $\frac{|\sin X|}{2\sqrt{(k+1)\pi}} \leq \frac{|\sin X|}{2\sqrt{X}} \leq \frac{|\sin X|}{2\sqrt{k\pi}}$

ゆえに、 $\int_{k\pi}^{(k+1)\pi} \frac{|\sin X|}{2\sqrt{(k+1)\pi}} dX \leq A_k \leq \int_{k\pi}^{(k+1)\pi} \frac{|\sin X|}{2\sqrt{k\pi}} dX$



$$\begin{aligned} \text{ここで、} \int_{k\pi}^{(k+1)\pi} |\sin X| dX &= \int_0^\pi \sin X dX \\ &= [-\cos X]_0^\pi \\ &= 2 \end{aligned}$$

したがって、 $\frac{2}{2\sqrt{(k+1)\pi}} \leq A_k \leq \frac{2}{2\sqrt{k\pi}}$ 、すなわち

$$\frac{1}{\sqrt{(k+1)\pi}} \leq A_k \leq \frac{1}{\sqrt{k\pi}} \text{ が成り立つ。}$$

(2) $\int_{\sqrt{n\pi}}^{\sqrt{2n\pi}} |\sin(x^2)| dx$

$$= \int_{\sqrt{n\pi}}^{\sqrt{(n+1)\pi}} |\sin(x^2)| dx + \int_{\sqrt{(n+1)\pi}}^{\sqrt{(n+2)\pi}} |\sin(x^2)| dx + \dots + \int_{\sqrt{(2n-1)\pi}}^{\sqrt{2n\pi}} |\sin(x^2)| dx$$

$$= \sum_{k=n}^{2n-1} \int_{\sqrt{k\pi}}^{\sqrt{(k+1)\pi}} |\sin(x^2)| dx$$

$$= \sum_{k=n}^{2n-1} A_k$$

ここで、(1) より、 $\sum_{k=n}^{2n-1} \frac{1}{\sqrt{(k+1)\pi}} \leq \sum_{k=n}^{2n-1} A_k \leq \sum_{k=n}^{2n-1} \frac{1}{\sqrt{k\pi}}$

ゆえに、 $\frac{1}{\sqrt{n}} \sum_{k=n}^{2n-1} \frac{1}{\sqrt{(k+1)\pi}} \leq B_n \leq \frac{1}{\sqrt{n}} \sum_{k=n}^{2n-1} \frac{1}{\sqrt{k\pi}}$

$$\begin{aligned}
 (\text{最右辺}) &= \frac{1}{n} \sum_{k=n}^{2n-1} \frac{1}{\sqrt{\frac{k}{n}\pi}} \longrightarrow \int_1^2 \frac{1}{\sqrt{x\pi}} dx \\
 &= \frac{1}{\sqrt{\pi}} \int_1^2 x^{-\frac{1}{2}} dx \\
 &= \frac{1}{\sqrt{\pi}} \left[2x^{\frac{1}{2}} \right]_1^2 \\
 &= \frac{2}{\sqrt{\pi}} (\sqrt{2} - 1)
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 (\text{最左辺}) &= \frac{1}{\sqrt{n}} \sum_{k=n+1}^{2n} \frac{1}{\sqrt{k\pi}} \\
 &= \frac{1}{n} \sum_{k=n+1}^{2n} \frac{1}{\sqrt{\frac{k}{n}\pi}} \longrightarrow \int_1^2 \frac{1}{\sqrt{x\pi}} dx \\
 &= \frac{2}{\sqrt{\pi}} (\sqrt{2} - 1)
 \end{aligned}$$

はさみうちの原理から, $\lim_{n \rightarrow \infty} B_n = \frac{2}{\sqrt{\pi}} (\sqrt{2} - 1) \dots$ 【答】

【総括】

定積分に関する不等式評価の問題で、多くの人が苦手とするトピックの一つです。

$\int_{\sqrt{k\pi}}^{\sqrt{(k+1)\pi}} |\sin(x^2)| dx$ を面積と捉え直接的に評価することも考えたかもしれませんが、積分区間の幅が、 $\sqrt{(k+1)\pi} - \sqrt{k\pi}$ と汚いため、見通しが立ちづらいものがあります。

このあたりから置換積分にシフトしていきたいところですが、決して簡単ではなく、スムーズにいかなかった受験生も多かったかもしれません。

(2) は (1) の結果を認めればそこまで大変ではないため、試験場では (2) だけでも確保したいところで、冷静な判断が求められるでしょう。